

決めうち この1本

りん たいこ

ライター。「週刊エコノミスト」や「FLIX」などで映画紹介やインタビュー記事を手掛ける。【近況】柚月裕子さんの小説にはまっています。まだ数冊ですが、「盤上の向日葵」と「慈雨」は良かった。お薦めです。



© 2023 「あんのこと」製作委員会

あんのこと

6月7日より新宿武蔵野館ほか全国で公開
監督・脚本：入江悠
出演：河合優実、佐藤二朗、稲垣吾郎、河井青葉、
広岡由里子、早見あかり
2023年／日本／114分／キノフィルムズ配給

辛い話です。でも間違いなく、“気づき”を与えてくれる映画です。新型コロナウイルスが猛威を振るい始めた2020年。その中で必死に生きるひとりの女性の姿を、実際にあった出来事を基に描いていきます。

“普通” だけれど大きな一歩

20歳の香川杏は、ホステスの母と、脚の悪い祖母と暮らしている。子供の頃から酔った母に殴られて育った彼女は、小学4年で不登校になり、12歳の時、初めて体を売った。その後、覚せい剤に手を出し、いつしか依存症になっていった。そんな彼女に手を差し伸べたのが、刑事の多々羅だった。彼が主催する薬物更生者の自助グループ

の集会に参加し、そこで知り合った週刊誌記者の桐野らと交流する中で、彼女は少しずつ更生の道を歩き始める。ところが、コロナが蔓延し始め……。

杏は、母親にいわれるがまま体を売り、抵抗すると殴られた。なぜ逃げ出さなかったのか？ そう考えずにはいられないが、杏には杏なりの思いがあったのだろう。そんな彼女が変わり始める。

多々羅と知り合ってから杏は、彼の勧めに従い、日記帳に、薬を使わなかった日に丸を書いていく。新しい仕事に就き、少しずつ、だけど確実に“普通の生活”を始めていく。“普通”は彼女にとって大きな一歩だ。その一歩を踏み出すには、とても勇気がいったはずだ。それを彼女はやってのけた。当